

畿央大学人材育成の目的に関する規則

（目的）

第1条 この規則は、学校法人冬木学園（以下「学園」という。）畿央大学（以下「本学」という。）学則に基づき、本学および本学の学部等ごとの人材育成の目的に関し、必要な事項を定める。

（人材育成の目的）

第2条 本学および本学の学部等ごとの人材育成の目的は、別表1のとおりとする。

（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）

第3条 前条に規定する目的をふまえ、本学および本学の学部等ごとの「学位授与の方針」を別表2、「教育課程編成・実施の方針」を別表3、「入学者受入れの方針」を別表4のとおり定める。

（点検・評価）

第4条 第2条に定める人材育成の目的は、定期的にその適切性等について検証する。

（事務）

第5条 この規則に関する事務は、本学教育推進部が行なう。

（改廃）

第6条 この規則の改廃は、本学教授会および学園理事長室会議の議を経て、本学学長が行なう。

附 則

この規則は、令和5年12月7日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和8年4月1日から施行する。

畿央大学 人材育成の目的

【健康科学部】

WHOは「健康とは単に病気でない、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも健全な状態であること」と定義している。健康科学部では人間の身体と健康についての科学的視点や高い専門的技術を養うことと合わせて、建学の精神に則り、豊かな人間性をもち、人の心の痛みに共感することができる人材を育むことを目的とする。

生命の尊厳を基盤に豊かな人間性と徳性を培い、本学部を構成する理学療法学科、看護医療学科、健康栄養学科および人間環境デザイン学科の学科を越えた取組みを行なうことによって保健・医療・福祉、日常生活環境を総合的に把握し、専門的知識と的確な技術をもって地域社会および国際社会に貢献する人材を育成する。

《理学療法学科》

リハビリテーションには、疾病、外傷などによって失われた機能を回復するためのすべてのサービスが含まれ、その教育研究についても、治療・訓練の他、装具・日常生活用具の活用などさまざまな分野がある。近年では、高齢化社会の進行と障がい者の増加に伴い、また健常者については疾病の予防などのために、多種多様な保健・医療・福祉のサービスが必要とされてきている。そしてこれらのサービスの多面的かつ包括的な需要に応えるためには、高度な知識や技術を持った支援者が必要である。

このような支援者の役割の一翼を担うのが理学療法士であり、健康で幸福な生涯を全うしたいと願う多くの国民のニーズに応えるためには、専門職としての理学療法士の需要は今後ますます高まることが予想される。本学科では4年間の学修によって深い専門的知識と高い技術を修得すると同時に、医療従事者として人間の尊厳、生命への畏敬を理解し、人間を総合的に支援できる幅広い教養と倫理観を持った人材を育成することを目標としている。さらに、保健・医療・福祉の各分野の専門家と連携、協力し、役割分担をしてチーム医療に参画することのできる理学療法士を養成する。

《看護医療学科》

病院においてはチーム医療や高度医療、地域においては訪問看護などの場面で、看護師には、周辺分野の知識や教養、協調性、人間性などが求められている。本学科では、理学療法学科、健康栄養学科、人間環境デザイン学科とコラボレーションし、理学療法士や管理栄養士らとのチーム医療で活躍する看護師、また住環境や地域環境から健康に目を配ることのできる保健師を養成することによって、乳幼児から高齢者までの健康な暮らしの実現に貢献する。

今後、看護師は「人々の生活が営まれるあらゆる場でそこに生じている利用者のニーズに対し、責任を持って問題解決していく能力が求められている（看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標）」ことから、人間生活の営まれる地域社会との連携を重視した教育研究内容を持つこととする。これらを通して、人の痛みや健康への願いを汲取り、「心」の声を聴くことのできる感性を磨き、高い専門性と臨地に役立つ実践力を持ち「全人的ケア」を行なう人間性豊かな看護師・保健師を養成する。

《健康栄養学科》

国民の栄養状態の向上という社会的要請から生まれた栄養士は、食や栄養をめぐる社会環境の変化を常に厳しく分析し、それに対応していく必要がある。高齢化と食環境の変化が急速に進行する中で、栄養士には集団給食の栄養管理だけでなく、傷病者を含む個人への栄養指導や疾病治療における栄養管理が求められるようになってきた。特にチーム医療への参画や福祉・介護分野との連携の必要性が高まり、科学的な栄養評価・判定に基づく指導を行なうことができる、高度な専門知識・技能を持った管理栄養士の養成が求められている。また、個々の人間を対象に栄養指導を行なうためには、豊かな人間性や教養、コミュニケーション力を育てる教育が重要となる。

本学科では食品・栄養・保健・医療分野にわたる教育研究を通して、健康のために望ましい食生活とライフスタイルのあり方を解明し、それを実践・普及することのできる総合的な問題解決能力を持った管理栄養士を養成する。

《人間環境デザイン学科》

高齢化や多様化が進む社会において、幼児や高齢者、障がい者のみならず、すべての人が健康で心豊かに生活できる環境を創造することが求められている。そのためにはまず人体の構造や機能についての科学的視点を持つと同時に、使い手の心情に対する深い人間理解が必要である。さらに、実際に人が快適に使える物を作りあげる「ものづくり」の専門的知識と確かな技術が必要となる。

本学科においては「ユニバーサルデザイン」に裏打ちされた衣服や生活用品づくりをはじめ、人々の居住環境としてのインテリアや建築、安全で活力のあるまちづくりまで、幅広い領域を対象とした教育研究を行なう。本学科の建築・まちづくりコースにおいては高度な専門知識と技能を備えた建築士を養成し、それ以外のコースにおいてもインテリアやプロダクト、ファッションなど様々な専門分野で活躍できる能力を身につけ、健康で快適な環境をデザインできる実践的な問題解決型の人材を養成する。

【教育学部】

《現代教育学科》

教育学部現代教育学科は、建学の精神を教育の基本とし、現代の教育課題に真摯に取り組み、それらを協働して解決していくための「信念」「知識」「実践力」を兼ね備えたタフな教育専門家を育成する。本学科が育成する教育専門家とは、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、中・高英語教諭、中・高数学教諭、養護教諭、特別支援学校教諭をはじめ、広く教育に関する資質能力を生かして活躍する人材を指す。彼らが活躍する場は学校や保育施設、企業や行政など様々であるが、本学科がめざすのはそれぞれの現場においてチームを組んで動くことができ、地域と連携することができ、多様な子どものニーズに対応することができ、活動の核となることのできる人材の育成である。

そうした人材には、教育に関する幅広く高度な専門的知識、実践的な課題解決能力、そして健全な心身と豊かな人間性が不可欠である。さらに、優れた教育専門家が備えておくべき資質として近年その重要性が増しているICT（情報通信技術）を活用した授業スキルや、特別支援教育に関する知識などについても修得しておく必要がある。そのために本学科では、①「教養科目」によって健全な心と身体を育み、豊かな人間性を身につけ、②「専門基礎科目」によって教育についての幅広い素養を身につけ、③「専門科目」によって教育の専門家として必要な専門的知識と実践的スキルを身につけ、④「卒業研

究」によって21世紀を生き抜くための批判的思考力と創造力を身につける。また各種実習やインターンシップなど現場体験活動によって、実践的な課題解決能力を持った人材を育成する。

学部・学科の教育目標（人材育成の目的【抜粋】）

【健康科学部】

健康科学部は、人間の身体と健康についての科学的視点や高い専門的技術を養うことと合わせて、建学の精神に則り、豊かな人間性をもち、人の心の痛みに共感することができる人材を育みます。

《理学療法学科》

理学療法学科では、深い専門的知識と高い技術を修得すると同時に、医療従事者として人間の尊厳、生命への畏敬を理解し、人間を総合的に支援できる幅広い教養と倫理観を持った理学療法士を養成します。

《看護医療学科》

看護医療学科では、人の痛みや健康への願いを汲取り、「心」の声を聴くことのできる感性を磨き、高い専門性と実践力を持ち「全人的ケア」を行なう人間性豊かな看護師・保健師を養成します。

《健康栄養学科》

健康栄養学科では、食品・栄養・保健・医療分野にわたる教育研究を通して、健康のために望ましい食生活とライフスタイルのあり方を解明し、それを実践・普及することのできる総合的な問題解決能力を持った管理栄養士を養成します。

《人間環境デザイン学科》

人間環境デザイン学科では、高度な専門知識と技能を備えた建築士や、インテリアやプロダクト、ファッションなど様々な専門分野で、健康で快適な環境をデザインできる実践的な問題解決型の人材を養成します。

【教育学部】

《現代教育学科》

教育学部現代教育学科は、建学の精神を教育の基本とし、現代の教育課題に真摯に取り組む、それらを協働して解決していくための「信念」「知識」「実践力」を兼ね備え、教育に関する幅広く高度な専門的知識、実践的な課題解決能力、そして健全な心身と豊かな人間性を持った教育専門家を育成します。

【大学院】

《健康科学研究科健康科学専攻 修士課程》

本研究科修士課程においては、「健康」を総合的、科学的に捉え、包括的に現代的課題に取り組むために必要な健康科学を探究することを理念とする。

この理念に基づいて、健康科学の各分野における現実の課題に最先端の知識・技術で取り組む高度専門職業人、現場の課題を解決するための研究開発力を持つ研究者、また高度専門職業人かつ研究者としての見識、技術を身につけた上で、次代の後継者を育てる高い教育力のある人材の育成を目的とする。

《健康科学研究科健康科学専攻 博士後期課程》

少子高齢化が著しく進み、自然および社会環境が変化する中で健康をめぐる問題はより深刻なものとなり、その解決のためには高度な専門性と、人間や社会のありようについての豊かな学識が必要とされている。本研究科博士後期課程においては研究者として自立して創造性豊かなすぐれた研究・開発に取り組む研究者、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた高等教育機関の教育者、そして病院をはじめとする臨床の現場で課題解決型の研究に取り組む専門的業務の指導者の育成を目的とする。

《教育学研究科教育実践学専攻 修士課程》

本研究科においては、現職教員等が、多くの専門領域における国際的かつ最先端の研究成果を学び、自ら研究活動に取り組むことを通して、高度な研究力と幅広く柔軟な思考力を身につけることをめざす。そして「総合的人間力」の向上に努め、地域の教育が直面している教育課程・学級経営・学校経営に関わる諸課題や子どもの発達支援を重点研究として取上げ、最前線の教育課題に理論的科学的視点を持って実践的に取り組み、地域全体の教育の改善・発展に指導的立場から貢献できる人材を育成する。

【助産学専攻科】

妊産婦の精神的、身体的、社会的諸問題に対応でき、妊娠・出産から育児まで幅広く母子の健康を守ることができる助産師への社会的期待が高まっている。本専攻科は、建学の精神を教育の基本理念におき、高潔な人格と助産学についての幅広く高度な学識・技術を身につけた助産師の養成を行なうことを目的とする。

【臨床細胞学別科】

各種の検診および早期診断技術の発達にともない、細胞診断業務の重要性と業務量が飛躍的に増加しており、この業務を担当する細胞検査士への社会的期待は大きい。本別科は、建学の精神を教育の基本理念におき、高度な専門的知識を有し、がんの早期発見と正確な診断に寄与するとともに、医療全般でがん医療の向上に貢献できる資質の高い細胞検査士の養成を行なうことを目的とする。

別表2

畿央大学 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

I. 畿央大学

畿央大学は生命の尊厳を基盤に、豊かな人間性と徳性を培い、専門的知識と的確な技術をもって地域社会および国際社会に貢献する人材を養成することを目標とする。そこで、畿央大学での学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

1. 生命に対する深い畏敬の念と倫理観を持ち、幅広く豊かな教養を備え、社会で活動できる。
2. 人間を総合的に理解し、修得した専門的知識と技術をもって健康と教育に関する諸課題に適切に対応できる。
3. 地域の特性に主体的に対応し、地域の諸機関と連携・協働して地域の諸資源を活用できる。
4. 健康と教育に関する諸課題を分析評価し、問題解決をはかることができる。
5. 国際化に対応した視野をもって、健康問題・教育問題を科学的・創造的に研究できる。

II. 健康科学部

畿央大学健康科学部では、建学の精神（「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」）に則り、人間の身体と健康についての科学的視点や専門的知識・技術を養うことと合わせて、豊かな人間性を持ち、人の心の痛みに関心することができるといった人材を育むことを目標とする。そこで、本学部における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 生命の尊厳を基盤に豊かな人間性と確かな倫理観を持ち、人の心の痛みに関心することができるといった人材を育むことができる。（徳をのばす／態度・志向性）
2. 専門分野および関連分野の専門家との連携・協働に必要な協調性とリーダーシップを身につけている。（徳をのばす／態度・志向性）
3. 豊かな教養と幅広い視点を持っている。（知をみがく／知識・理解）
4. 人間の身体と健康についての科学的視点や専門的知識・技術を修得している。（知をみがく／知識・理解）
5. 保健・医療・福祉の各分野の専門家との連携・協働の土台となるコミュニケーション力、プレゼンテーションスキルを身につけている。（知をみがく／汎用的技能）
6. 国際化に対応できる知識・理解力を身につけている。（知をみがく／知識・理解、汎用的技能）
7. 修得した知識、研究・調査能力を用い、生涯にわたって自ら学び続けることができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）
8. 修得した専門的知識と的確な技術をもって、人間の身体と健康に関する今日的課題を解決し、自らの価値観のもとに創意工夫をこらすことで、地域社会および国際社会に貢献することができる。（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）

III. 健康科学部 理学療法学科

畿央大学健康科学部理学療法学科では、理学療法士としての深い専門的知識と高い技術を修得すると同時に、医療従事者として人間の尊厳、生命への畏敬を理解し、幅広い教養と倫理観を持った徳性のある人材を養成することを目標としている。さらに、保健・医療・福祉の各分野の専門家と連携・協働し、役割分担をしてチーム医療に参画することのできる人材を養成する。そこで、健康科学部の学位授与の方針を基礎としつつ、本学科における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 医療従事者としての倫理観を持ち、人間の尊厳や生命への畏敬を理解している。
（徳をのばす／態度・志向性）
2. 保健・医療・福祉の各分野の専門家と連携・協働しつつチーム医療に参画し、チームの中でリーダーシップを発揮できる。（徳をのばす／態度・志向性）
3. 豊かな教養と幅広い視点を持っている。（知をみがく／知識・理解）
4. 理学療法学に関する深い専門的知識と高い技術を修得している。（知をみがく／知識・理解）
5. 保健・医療・福祉の各分野の専門家との連携・協働の土台となるプレゼンテーションスキルを身につけている。（知をみがく／汎用的技能）
6. 医療をめぐる問題の国際化に対応できる知識・理解力を身につけている。（知をみがく／知識・理解、汎用的技能）
7. 修得した知識、研究・調査能力を用い、生涯にわたって自ら学び続けることができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）
8. 理学療法学に関する専門的知識と的確な技術をもって、人間の身体と健康に関する今日的課題を解決し、自らの価値観のもとに創意工夫をこらすことで、地域社会および国際社会に貢献することができる。
（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）

IV. 健康科学部 看護医療学科

畿央大学健康科学部看護医療学科では、高い専門性と臨地に役立つ実践力、およびチーム医療で活躍できる協調性を持ち、「全人的ケア」の行なえる人間性豊かな看護師・保健師を養成する。そこで、健康科学部の学位授与の方針を基礎としつつ、本学科における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 医療従事者として、人間の尊厳や生命への畏敬について理解し、人の痛みや健康への願いを汲取ることができる感性を持っている。（徳をのばす／態度・志向性）
2. チーム医療や高度医療、地域の訪問看護などの場面で、様々な医療関係者と円滑なコミュニケーションをはかり協働し、リーダーシップを発揮できる。（徳をのばす／態度・志向性）
3. 豊かな教養と幅広い視点を持っている。（知をみがく／知識・理解）
4. 看護医療分野に関する高い専門性と臨地に役立つ実践力を修得している。（知をみがく／知識・理解）
5. 保健・医療・福祉の各分野の専門家との連携・協働の土台となるプレゼンテーションスキルを身につけ

ている。（知をみがく／汎用的技能）

6. 医療をめぐる問題の国際化に対応できる知識・理解力を身につけている。（知をみがく／知識・理解、汎用的技能）

7. 修得した知識、研究・調査能力を用い、生涯にわたって自ら学び続けることができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）

8. 看護医療に携わる者として、あらゆる生活の場で生じる利用者のニーズを正しく理解し、責任を持って問題を解決していくことができる。（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）

V. 健康科学部 健康栄養学科

畿央大学健康科学部健康栄養学科では、食品・栄養・保健・医療分野にわたる教育研究を通して、健康づくりのための望ましい食生活とライフスタイルのあり方を解明し、それを実践・普及することのできる総合的な問題解決型人材を養成する。そこで、健康科学部の学位授与の方針を基礎としつつ、本学科における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 生命に対する深い畏敬の念と豊かな人間性を持っている。（徳をのばす／態度・志向性）

2. 食品・栄養・保健・医療分野の専門家と連携・協働するために必要な協調性とリーダーシップを身につけている。（徳をのばす／態度・志向性）

3. 豊かな教養と幅広い視点を持っている。（知をみがく／知識・理解）

4. 食や栄養に関する高度な専門知識・技能を修得している。（知をみがく／知識・理解）

5. 食品・栄養・保健・医療の各分野の専門家との連携・協働の土台となるプレゼンテーションスキルを身につけている。（知をみがく／汎用的技能）

6. 修得した知識、研究・調査能力を用い、生涯にわたって自ら学び続けることができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）

7. 健康づくりのための望ましい食生活とライフスタイルのあり方を総合的に解明し、それを実践・普及することができる。（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）

VI. 健康科学部 人間環境デザイン学科

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科では、「すべての人が健康で豊かに生活できる環境をいかに創造するか」という問題意識を持って環境（衣・住）に関わるデザインができる人材を養成する。そこで、健康科学部の学位授与の方針を基礎としつつ、本学科における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 幼児から高齢者、障がい者をはじめ、すべての人間に対する深い畏敬の念を持ち、デザインに携わる者としての倫理観を有している。（徳をのばす／態度・志向性）

2. 生活環境に関する様々な分野の専門家との連携・協働に必要なコミュニケーション力とリーダーシップを身につけている。（徳をのばす／態度・志向性）

3. 人体の構造・機能や人間の生活全般についての科学的認識を持っている。（知をみがく／知識・理解）
4. 建築・デザイン分野に関する総合的な知識と専門的視点を有している。（知をみがく／知識・理解）
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを持ち、自らの意見を正確に相手に伝えることができる。（知をみがく／汎用的技能）
6. 一人ひとりの特性に応じてデザインすることができる感性や創造力を生涯にわたってみがき続けることができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）
7. 修得した専門的知識と技術を土台として、これからの時代に必要とされる環境を適切に分析し、自ら創造していくことができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）

VII. 教育学部 現代教育学科

畿央大学教育学部および同学部現代教育学科では、現代的教育課題への対応を背景として、個人、家庭、学校および職域を含む地域社会全体の教育力の向上発展に寄与できる人材を育成することをめざす。そこで、本学部・学科における学びで次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

〔※（ ）内は、本学の建学の精神および中央教育審議会答申に示された「学士力」に関する主な内容との対応を記したもの〕

1. 生命への畏敬の念を持ち、教育に携わる者としての倫理観や子どもに対する深い理解と愛情を持っている。（徳をのばす／態度・志向性）
2. 同僚・保護者・地域との連携・協働に必要な協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを身につけている。（徳をのばす／態度・志向性）
3. 現代的教育課題に対する確かな理解と豊かな教養を備えている。（知をみがく／知識・理解）
4. 学校教育、幼児教育、保健教育に関わる分野の高度専門職業人として必要な教育学の諸理論、子どもの発達、各教科・領域の内容や指導法、学校保健等についての専門的な知識を有している。（知をみがく／知識・理解）
5. 高度専門職業人として必要な情報収集・処理能力やプレゼンテーションスキルを修得している。（知をみがく／汎用的技能）
6. グローバル化時代に求められる教育や特別な支援を必要とする子どもへの対応など、教育をめぐる新たな課題を理解し、それらに適切に対処できる力を身につけている。
（知をみがく／知識・理解、汎用的技能、美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）
7. 授業や保育、養護に関わる内容・活動について自ら考え、実践し、マネジメントしていく力を身につけている。（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）
8. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくことができる。（美をつくる／態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力）
9. 修得した専門的知識と技術を活用し、地域社会全体の教育力の向上・発展に寄与できる。（美をつくる／総合的な学習経験と創造的思考力）

VIII. 健康科学研究科

畿央大学大学院健康科学研究科では、「健康」を総合的に捉え、地域とともに現代的課題に包括的に取り組む

ために必要な科学を探究することを理念とする。この理念に基づいて、健康科学の各分野における高度な知識、技術等を一体的に修得し、他の専門職や関係者と連携する能力を兼ね備えて、課題解決への指導的役割を果たすことができる能力を身につけ、所定の単位を修得し、基準を満たす修士論文もしくは博士論文を提出した者に学位を授与する。

IX. 教育学研究科

畿央大学大学院教育学研究科では、現代社会が直面する教育の諸問題への対応や、新たな実践的諸課題に対し、高度な専門的知識・技術や研究能力を培い、地域と協働しながら、課題の解決をはかる人材を育成する。従って、本研究科における学修・研究で次のような能力を身につけ、修業年限以上在籍したうえで、所定の単位を修得し、基準を満たす修士論文を提出した者に修士の学位を授与する。

1. 広い意味での教育に携わる高度専門職業人としての倫理観と使命観を持って職務を遂行する資質を備えている。
2. 様々な人間関係のなかで、良好なコミュニケーション・スキルを持って信頼関係を築く力を有している。
3. 現代の教育課題解決に取り組むための高度な知識・技術と柔軟な思考力を有している。
4. 経験で培われた「実践知」と大学で創出される「理論知」を架橋し、理論的・科学的裏づけを持った「臨床知」へと発展させるための基礎的な研究能力を有している。
5. 生涯にわたって自律的に学び続ける自己教育者として、グローバルな視座に立って、地域の教育課題を的確に把握し、その改善・発展に貢献するための力を備えている。

X. 助産学専攻科

畿央大学助産学専攻科では、修了要件に必要な単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に修了証書を授与する。

1. 人間性豊かで対象を尊重できる。
2. 母子をとりまく社会のニーズや、産科医療の高度化ならびに助産ケアの多様性に対応できる。
3. 女性のライフスタイルにおけるリプロダクティブヘルスに関する課題を捉えることができる。
4. 保健・医療・福祉チームとの連携をはかり、地域社会に貢献できる。
5. 助産師としてのアイデンティティを形成することができる。

XI. 臨床細胞学別科

畿央大学臨床細胞学別科では、修了要件に必要な単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に修了証書を授与する。

1. 医療従事者としての倫理観を持ち、人間の尊厳や生命への畏敬を理解している。
2. 細胞診断学に関する深い専門的知識と高い技術を習得している。
3. 保健・医療・福祉チームとの連携をはかり、地域社会に貢献できる。
4. 細胞検査士としてのアイデンティティを形成することができる。

別表3

畿央大学 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

I. 畿央大学

畿央大学では、建学の精神である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を教育の基本理念におき、高潔な人格と幅広く高度な専門的知識・技術を身につけ、以て地域社会および国際社会に貢献できる有為な人材を育成するために必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 4年間を8セメスターに分け、セメスターごとに評価をすることで、体系的に修得させる。
2. 教育課程を大きく教養科目群と専門科目群に分ける。
3. 教養教育において生命の尊さやそのあり方について基本的な認識と価値意識を培うため、「生命倫理」を全学必修科目とする。
4. 専門科目群は「専門基礎科目」「専門科目」からなり、それぞれの学科の人材養成の目的を達成できるよう体系的に科目を配置する。
5. 専門科目群の理解を深め実践力を養うため、実験・実習・演習を重視し数多く配置する。
6. 理論と実践の一体的理解をはかるため、学外実習・インターンシップ・ボランティア活動を充実させる。
7. 長期休暇を利用し、フィールドワークや集中講義を実施する。

II. 健康科学部

畿央大学健康科学部では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 生命の尊厳について学び、豊かな人間性と確かな倫理観を養うために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」やチーム医療に関する科目を設置する。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 人間の身体と健康についての科学的視点や専門的知識・技術を修得するために、各学科の人材養成の目的に応じて専門基礎科目および専門科目を体系的に配置する。
5. 健康科学分野に関わる高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とする。
6. 国際化に対応する知識・理解力を身につけるために、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させるとともに、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目を設置する。
7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するための科目を設置する。
8. 実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実験・実習・演習および学外実習・インターン

シップを充実させ、ボランティア活動を支援する。

Ⅲ. 健康科学部 理学療法学科

畿央大学健康科学部理学療法学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。本学科の教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 医療従事者としての倫理観を養い、人間の尊厳や生命への畏敬について学ぶために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」やチーム医療に関する科目を設置する。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 医学的な基礎知識に基づいて理学療法学に関する深い専門的知識と高い技術を修得できるよう、専門基礎科目と専門科目を充実させ、それらを水準別・領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。
6. 医療をめぐる問題の国際化に対応する知識・理解力を身につけるために、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させ、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目や英語論文講読に関する科目を設置する。
7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア形成セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。
8. 理学療法士としての専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

Ⅳ. 健康科学部 看護医療学科

畿央大学健康科学部看護医療学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 人間の尊厳や生命への畏敬について理解し、人の痛みや健康への願いを汲み取ることができる感性を養うために、「生命倫理」を必修科目とする。
2. チーム医療や高度医療、地域の訪問看護などの場面で求められる協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」や「チーム医療ふれあい実習」、「へき地医療体験実習」等の必修科目を充実させる。
3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 看護医療分野に関する高い専門性と臨地に役立つ実践力を修得できるよう、専門基礎科目と専門科目を充実させ、それらを水準別・領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。

5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。

6. 医療をめぐる問題の国際化に対応できる知識・理解力を修得できるよう、外国語（英語）科目を体系的に配置し、海外研修の機会を充実させるとともに、日本社会および国際社会に関する基礎知識について学ぶための教養科目や「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」、「外書講読」等の専門科目を設置する。

7. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア入門セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。

8. 看護医療に携わる者としての責任感や専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

V. 健康科学部 健康栄養学科

畿央大学健康科学部健康栄養学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 生命に対する深い畏敬の念と豊かな人間性を育むために、「生命倫理」を必修科目とする。

2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」等の科目を設置する。

3. 豊かな教養と幅広い視点を身につけることができるよう、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。

4. 管理栄養士など、食や栄養に関する分野の高度専門職業人に要求される深い専門的知識と高い技術を修得できるよう、食品科学と栄養学に関する必修科目・選択科目を充実させ、それらを領域別に、基礎から応用へと体系的に編成する。

5. 臨床栄養、スポーツ栄養、食品開発など学生の希望進路に応じたコース別の推奨科目を設置し、それらを体系的に編成する。

6. 食や栄養に関する分野の高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、実験・演習・実習科目において学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。

7. 学んだ知識・技術に対する理解を深めるために、「臨地実習」など学外実習の機会を充実させる。

8. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、「ベーシックセミナー」、「キャリア形成セミナー」、「卒業研究」等の科目を設置する。

9. 食や栄養に関する専門性を土台とした実践的な問題解決能力を身につけることができるよう、実験・実習・演習科目やインターンシップを充実させるとともに、それらを理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

VI. 健康科学部 人間環境デザイン学科

畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、

健康科学部の教育課程編成・実施の方針を基礎としつつ、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. すべての人間に対する深い畏敬の念を持ち、デザインに携わる者としての倫理観を身につけることができるよう、「生命倫理」および「ユニバーサルデザイン」を必修科目とする。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」や「プロジェクトゼミ」を設置する。
3. 人体の構造・機能や人間の生活全般についての科学的認識を持つことができるよう、関連する領域の専門基礎科目を設置するとともに、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 建築・デザイン分野に関する総合的な知識と専門的視点を修得できるよう、学生の希望進路に応じた選択科目を充実させ、それらを専門基礎科目および専門科目に分けて体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として求められるプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、自らの意見を正確に相手に伝えることができるよう、その他の科目においても学生による発表の機会を積極的に設ける。
6. 自らの感性や創造力を生涯にわたってみがき続けることができるよう、「プロジェクトゼミ」や「卒業研究」等の科目を設置する。
7. 建築・デザイン分野に携わる者として、これからの時代に必要とされる環境を自ら創り出していくための分析力や創造力を身につけることができるよう、実習・演習科目を充実させ、理論に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

VII. 教育学部 現代教育学科

畿央大学教育学部および同学部現代教育学科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成・実施の方針は次のとおりである。

1. 生命への畏敬の念や教育に携わる者としての倫理観、子どもに対する理解・愛情を育むために、「生命倫理」や「教育原理」を必修科目とし、見学実習に関する科目を設置する。
2. 協調性やコミュニケーション力、リーダーシップを育むために、「ベーシックセミナー」等の科目を設置する。
3. 現代の教育課題に対する理解と豊かな教養を身につけることができるよう、オムニバス講義「現代教育論」を設置するとともに、人文、社会、言語、情報、自然、健康、運動など広範な領域にわたる教養科目を設置する。
4. 教育学の諸理論、子どもの発達、各教科・領域の内容や指導法、学校保健等についての専門的な知識を修得できるよう、専門分野および学生の希望進路に応じた選択科目を充実させ、それらを専門基礎科目および専門科目に分けて体系的に編成する。
5. 高度専門職業人として必要な情報収集・処理能力やプレゼンテーションスキルを身につけることができるよう、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とするとともに、その他の科目においても学生によるプレゼンテーションの機会を積極的に設ける。
6. グローバル化時代への対応や特別な支援を必要とする子どもへの対応といった新たな教育課題を理解

し、それらに適切に対処する力を身につけることができるよう、外国語（英語）科目の体系的な配置、日本社会および国際社会に関する基礎知識や異文化コミュニケーションについて学ぶための科目の設置、海外研修の機会の提供をはかるとともに、「特別支援教育入門」を必修科目とするなど特別支援教育に関する科目を充実させる。

7. 授業や保育、養護の内容・活動に関する自律的な思考力、判断力、実践力、マネジメント力を養うために、「実践演習」等の実践・指導法に関する科目を充実させるとともに、それらを理論・基礎に関する科目と有機的に関連づけて配置する。

8. 生涯にわたって学び続ける能力と姿勢を形成するために、キャリア関連セミナーや「卒業研究」等の科目を設置するとともに、読む力・書く力を育成するためのプログラムを入学前から卒業に至る長期的スパンをもって編成する。

9. 修得した専門的知識と技術を応用して教育に関する今日的課題を解決する力を育成するために、実習・演習科目やインターンシップを充実させる。

VIII. 健康科学研究科

畿央大学大学院健康科学研究科は、教育上の目的を達成するため、必要な授業科目を開設するとともに研究指導計画を策定し、体系的な教育課程を編成する。教育課程編成にあたって、専攻分野に関する高度の専門的知識および能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する基礎的素養を涵養し、博士後期課程においては当該分野の学問の発展に寄与する研究を推進するよう配慮する。これらの教育課程を通じて、基準を満たす修士論文もしくは博士論文を完成させる。

IX. 教育学研究科

畿央大学大学院教育学研究科では、学位授与の方針に基づく教育上の目的を達成するために、必要な授業科目を開設するとともに研究指導計画を策定し、体系的な教育課程を編成する。教育課程編成にあたって、専攻分野に関する高度の専門的知識・技術および能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する基礎的素養を涵養する。これらの教育課程を通じて、基準を満たす修士論文を完成させる。

1. 広い意味での教育に携わる高度専門職業人としての倫理観と使命観を持って職務を遂行する資質を養うために、教育学、心理学、道徳、美学の各分野・領域の研究者によるオムニバス講義「美しく生きるための教育学総合特論」を必修科目とする。

2. 地域の教育課題に取り組む際に必要な教育実践力、組織運営力、コミュニケーション・スキルを培うために、「教育課程・評価」「学級経営・評価」「学校経営・評価」「生徒指導」、「発達障害」「障害児教育」「学校保健・学校看護」「カウンセリング」「運動と栄養」の内容に関する科目を配置する。

3. 現代の教育課題解決に取り組むための高度な知識・技術と柔軟な思考力を身につけられるように、専門科目において教育学各分野に関する特論科目、「ICT 応用演習」などの演習科目を設置する。

4. 「実践知」と「理論知」を架橋し「臨床知」へと発展させることができるように、「専門基礎科目」と「専門科目」の2つを柱として体系的に科目を配置する。

5. 現代の教育課題や教育ニーズについて理解し、教育実践力や実践的指導力を理論的・科学的に裏づけられた「臨床知」としていくための科目として、「教育実践課題演習」を必修科目とする。

6. 修士論文執筆に不可欠な学術論文の読み方および書き方などの基礎的な技能について学ぶために、「論

文演習」を必修科目とする。

7. 少人数によるゼミ形式の授業や一貫した研究指導を通じて、高度な教育研究を行う教員として必要とされる研究能力や研究マインドなどの諸能力を着実に身につけ、修士論文を完成させるために、「演習」および「特別研究」を必修科目とする。

X. 助産学専攻科

助産学専攻科は、本学の「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の建学の精神を基盤に、高度な専門知識や、助産ケアを提供するための技術を身につけ、生命誕生の瞬間に立ちあえる喜びと誇りをもち、人として美しく調和が取れる助産師を育成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 助産学基礎領域では、女性のライフサイクルや乳幼児の成長発達に必要な支援、助産学研究など助産師としての基礎知識を学び、助産師としてのアイデンティティについて考察する。
2. 助産学実践領域では、助産師に必要な診断とケアの実践能力を身につける。
3. 助産学関連領域では、健康科学の関連領域から食育、脳機能の観点で助産に役立つ知識を学び、医療職種間の連携についても知識を深める。

XI. 臨床細胞学別科

臨床細胞学別科は、本学の「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の建学の精神を基盤に、細胞診断学に関する専門的知識や技術を身につけ、がん医療の向上に貢献できる細胞検査士を養成するために、次の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 社会に役立つ医療従事者としての人間性と教養を育む。
2. 臨床細胞診断学に関する基礎的、専門的な知識の理解力を育む。
3. チーム医療の重要性を体感し、病態を踏まえた細胞診断技術を育む。
4. 科学としての細胞診断を実践し、深化させることができる能力を育む。

別表4

畿央大学 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

畿央大学が求める学生像（大学）

畿央大学のすべての学部、学科は生命の尊厳を基盤に、豊かな人間性と徳性を培い、専門的知識と的確な技術をもって地域社会および国際社会に貢献する人材を養成することを目標としています。そのためには幅広い教養と高い専門性に加えて、相互の理解や連携をすすめ、問題解決能力を育てることが必要です。授業では体系的な教養教育、専門教育とともに、学外実習・インターンシップ・ボランティア活動など、理論と実践の一体的理解をはかるための取組が多くなされます。

求める人材は次のような学生です。

1. 本学の各学科で学ぶのにふさわしい基礎的な知識や学ぶための技能を身につけた者
【基礎的知識・技能】
2. 高校までの学修を通して思考力、判断力、表現力などの能力を身につけた者
【思考力・判断力・表現力】
3. 自ら主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、知的探究心を身につけた者
【主体性・多様性・協働性】 【知的探究心】

「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」という学力の3要素に加え、本学独自の視点である「知的探究心」がすべて備わることで、本学における高度な学びが可能となります。

「知的探究心」は、新たな知識や課題に対する興味関心を深め、主体的に学び続ける意欲を指します。この要素は、学力の3要素と密接に関係しており、基礎的知識を土台にした思考力や表現力を通じて、学びをさらに発展させる原動力となるものです。そのため、入学者選抜においては、学力の3要素と本学独自の要素である「知的探究心」を多面的かつ総合的に評価し、これらの力が将来的に育まれる可能性を重視します。本学では、このような将来性を持つ多様な学生を積極的に受け入れます。

学科毎の求める人材は次のとおりです。

健康科学部理学療法学科

- ・将来、医療従事者をめざす者としての倫理観、人間の尊厳や生命への畏敬を理解する気持ちを有する者
- ・理学療法士の仕事に関心があり、知識や技術を深め、さらに発展させようとする意欲や科学的探究心を有する者
- ・高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有している者
- ・生涯にわたって自ら学び続ける意欲を有する者

健康科学部看護医療学科

- ・人間に対する深い愛情と洞察力を有し、看護職をめざす者としてふさわしい人格と倫理観および豊かな人間性を備え、健康への意識を高く有する者
- ・チーム医療を担うための協調性と柔軟性を有する者で、チームの中核となり社会に貢献することをめざす者
- ・高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有している者
- ・生涯にわたって自ら学び続ける意欲を有する者

健康科学部健康栄養学科

- ・健康と食、栄養の関わりについて深い関心を有し、管理栄養士をめざす者
- ・健全な食生活に必要な知識を修得し、人々の健康の保持・増進に寄与することで社会に貢献することに意欲を有する者
- ・高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有している者
- ・生涯にわたって自ら学び続ける意欲を有する者

健康科学部人間環境デザイン学科

- ・快適な住まいづくりやまちづくり、身のまわりのデザインに興味を有する者
- ・住む人、使う人の立場で環境と健康の関わりについて深い関心を有する者
- ・高等学校で履修する教科・科目全般に文理ともに広く学習し、高い基礎学力を有している者
- ・生涯にわたって自ら感性や創造力をみがき続ける意欲を有する者

教育学部現代教育学科

- ・学校生活の経験をとおり、学校や教育への親しみや関心を抱いている者
- ・子どもに対して深い愛情と思いやりの心を持ち、将来教育、保育の現場に従事することの重大性を認識している者
- ・高等学校で履修する教科・科目全般にわたる基礎学力を十分に身につけた者
- ・生涯にわたって自ら学び続ける意欲を有する者

入学者選抜の基本方針

本学ではアドミッション・ポリシーにしたがって目標にふさわしい学生を受け入れるために、次の入学者選抜を実施します。

指定校推薦選抜・高大連携特別推薦選抜

本学の建学の精神を理解し、目的意識をもって本学に入学を強く希望する方に対して、高等学校在学中の継続した学びの姿勢や努力を評価するため、口頭試問と提出書類を課し、口頭試問では「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」、提出書類では「基礎的知識・技能」を中心に評価し、総合的に選考します。

リーダーシップ選抜

本学の建学の精神を理解し、目的意識をもって本学に入学を強く希望する方に対して、それぞれの個性を活かせる方式により、専門家との連携・協働に必要な協調性やリーダーシップ、連携・協働の土台となるコミュニケーション力、プレゼンテーションスキルなどを評価します。

各方式の求める人材と選考方法は次のとおりです。

「活動アピール方式」では各分野で将来のリーダーとなり得る者を求めて、1次選考では、「学術分野」「学業成績」「部活動」「文化・芸術・スポーツ」「生徒会などの活動」「社会貢献・ボランティア活動」「外部検定・資格」「海外への留学経験」「専門学科（コース）」「オープンキャンパスへの参加」等の活動について自己アピール文と志望理由書を課し、「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」などを評価します。1次選考合格者を対象に2次選考では小論文と口頭試問を課し、「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」を評価し、最終的には総合的に選考します。

「セミナー方式」では大学で学ぶ者としての適性や将来性の認められる者を求めて、1次選考では、口頭で進行する大学教員の授業の内容を理解して、その内容を客観的に再構成する課題と志望理由書をもとに、

「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などを評価します。1次選考合格者を対象に2次選考では小論文と口頭試問を課し、「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」を評価し、最終的には総合的に選考します。

「ものづくり方式」では人間環境デザイン学科志望者を対象に、建築・デザイン分野に携わる者として、これからの時代に必要とされる環境を自ら創り出す能力を持つと認められる者を求めて、1次選考では、大学教員の説明内容を理解し、その内容に関する課題製作と志望理由書をもとに、「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」などを評価します。1次選考合格者を対象に2次選考では小論文と口頭試問を課し、「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」を評価し、最終的には総合的に選考します。

公募推薦選抜

本学の建学の精神を理解し、各分野の専門職をめざして本学に入学を希望する方に対して、志望学科の学修に対応できる基礎学力、学業成績、学業以外の高等学校在学中の活動などを評価するため、基礎学力テスト、調査書の学習成績の状況、活動評価をそれぞれの方式により組み合わせて得点化し、「基礎的知識・技能」「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」を評価します。また、自己推薦書より「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」「思考力・判断力・表現力」についても評価し、これらを総合的に選考します。

一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜

本学の建学の精神を理解し、各分野の専門職をめざして本学に入学を希望する方に対して、志望学科の学修に対応できる学力と総合的な基礎学力を評価するため、多様な入試科目を課し、それぞれの方式により多面的に「基礎的知識・技能」を評価し、総合的に選考します。また志望理由書より「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」「思考力・判断力・表現力」を確認します。

また、大学入学共通テスト利用選抜では、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた受験生を評価するために、英語検定試験のスコアによって加点することで、「基礎的知識・技能」に加えて「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性・多様性・協働性」を高

く評価します。

社会人選抜

本学の建学の精神を理解し、社会人としての経験を活かし、各分野の専門職をめざして本学に入学を希望する方に対して、社会人としての豊富な経験や基礎的な力、志望学科で学ぶために必要な学力を評価するため、自己推薦書、英語、小論文、面接を課し、英語、小論文では「基礎的知識・技能」「思考力・判断力・表現力」、自己推薦書および面接では「主体性・多様性・協働性」「知的探究心」「思考力・判断力・表現力」を評価し、総合的に選考します。

畿央大学が求める学生像（大学院）

健康科学もしくは教育学の各分野における高度な知識、技術等を一体的に修得し、他の専門職や関係者と連携する能力を備えて、課題解決への指導的役割を果たすことができる能力を身につけることを目標にしています。教育方法として、当該分野において活躍している社会人を大学院の学生として受け入れ教育を行なうために、インターネットによる授業の配信や夜間開講を行っています。

求める人材は次のとおりです。

1. 自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究をおこなう意欲をもった者
2. 高度な実践力をもった専門的職業人として、自律的に社会に貢献したいという態度を有している者
3. 専門領域の内容について、学士課程卒業相当（博士後期課程では修士課程修了相当）の知識および研究方法を身につけている者

研究科・課程毎の求める人材と実施する入試は次のとおりです。

健康科学研究科 修士課程

- ・健康科学分野の活動において指導力を発揮するために、論理的思考評価、企画能力、表現能力をみがこうとする者
- ・高度専門職業人、教育研究者として健康科学の実践の発展に貢献する意欲のある者
- ・人々の尊厳と健康が保障される社会をつくるために倫理的な判断と行動ができる者

健康科学研究科 博士後期課程

- ・健康科学分野にかかわる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な学術課題を考究することのできる者
- ・課程修了後は新たな学際的研究分野を開拓し、新しい学問を構築していける高い能力と意思を持つ者

教育学研究科 修士課程

- ・教育に携わることへの使命感と熱意を持ち、学部教育の上に、さらに実践的指導力を身につけることをめざす者
- ・経験に裏付けられた理論的知識と実践的知識を省察し、さらに高度な専門的能力、資質を探究しようとする者

・学校・地域社会との連携のもと、教育をめぐる教科や発達・学習に関する現代的諸課題について、論理的に考察しようとする者

入学者選抜の基本方針

本学ではアドミッション・ポリシーにしたがって目標にふさわしい学生を受け入れるために、次の入学者選抜を実施します。

一般入試

大学院で専門教育を学ぶ者としての基礎学力を身につけており、総合的な判断力を備え、意欲的に自分の能力を最大限に伸ばそうとする者を対象とした入試制度。学力試験として英語と専門科目を課し、あわせて面接試験を実施する。

社会人入試

高度専門職業人や研究者をめざして向学心に燃える社会人で、明確な目的意識と勉学意欲をもち、一般学生に対して勉学上の刺激や影響を与え模範となることができる者を対象とした入試制度。書類審査と研究内容に関する小論文試験により基礎学力および論理的思考能力、問題解決能力を判定し、面接試験により学習意欲や総合的な人間性を見極める。

学内推薦入試

修士課程においては本学の学部を卒業見込みで、博士後期課程においては同じく修士課程を修了見込みの者で、大学院で専門教育を学ぶ者としての基礎学力を身につけており、総合的な判断力を備え、意欲的に自分の能力を最大限に伸ばそうとする者を対象とした入試制度。卒業研究指導教員の推薦書を必須とし、筆記試験（専門科目）と面接試験で基礎学力および学習意欲や総合的な人間性を見極める。

助産学専攻科

アドミッション・ポリシー

生命の尊厳を基盤に専門的知識と的確な技術を修得し、周産期のみならずライフサイクル全般で女性に寄り添い貢献することのできる助産師の養成を目標としています。そのため次のような者の入学を求めて、入試を実施します。

1. 生命の誕生に責任を持ち真摯に向き合うことのできる者
2. 助産師としての実践能力の基盤の修得に強い意欲を有する者
3. 何事にも誠実に取り組み、責任ある行動をとることができる者
4. 他者と協働して学ぶことができる者

内部推薦入試

畿央大学卒業見込者を対象とし、建学の精神を理解し、助産学専攻科で助産師の課程を学ぶ者としての基礎能力を身につけており、助産師になることを強く希望する者を対象とした入試制度。母子看護技術試験、小論文試験および面接試験を課し、基礎学力および学習意欲や総合的な人間性を見極める。

一般入試

看護師の資格を有し助産師になることを強く希望する者で、意欲的に自分の能力を最大限に伸ばそうとする者を対象とした入試制度。母性看護学・小児看護学に関する専門科目と小論文試験、面接試験を課し、基礎学力および学習意欲や総合的な人間性を見極める。

臨床細胞学別科

アドミッション・ポリシー

高度な専門的知識を有し、がんの早期発見と正確な診断に寄与するとともに、医療全般でがん医療の向上に貢献できる細胞検査士の養成を目標としています。そのため次のような者の入学を求めて、推薦入試と一般入試を実施します。

1. 生命の尊厳をわきまえ、細胞診断に真摯に向き合うことができる者
2. 細胞検査士としての実践能力の修得に強い意欲を有する者
3. 何事にも誠実に取り組み、責任ある行動をとることができる者
4. 他者と協働して学ぶことができる者

公募推薦入試

臨床検査技師養成校の大学または専門学校を卒業し、臨床検査技師資格を取得する見込みの者を対象とし、臨床細胞学別科で細胞検査士の課程を学ぶ者としての基礎能力を身につけており、細胞検査士になることを強く希望する者を対象とした入試制度。指導教員の推薦書を必須とし、細胞病理学に関する小論文試験と面接試験を課し、基礎学力および学習意欲や総合的な人間性を見極める。

一般入試

臨床検査技師資格または衛生検査技師資格を有する者（取得予定者も含む）で、臨床細胞学別科で細胞検査士の課程を学ぶ者としての基礎能力を身につけており、細胞検査士になることを強く希望する者を対象とした入試制度。病理学、解剖学、組織学を中心にした検査技師としての専門科目試験と面接試験を課し、基礎学力および学習意欲や総合的な人間性を見極める。

以上